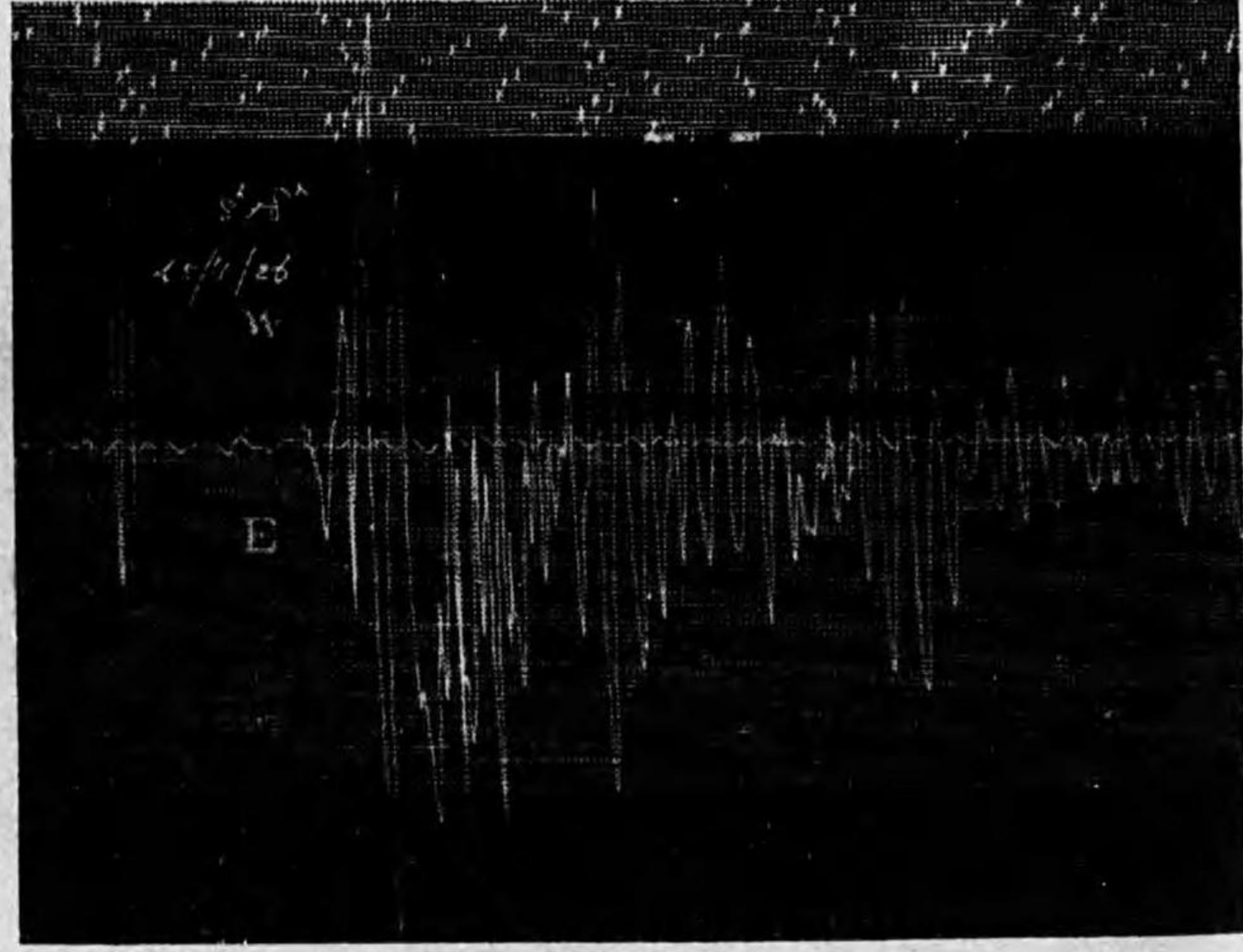


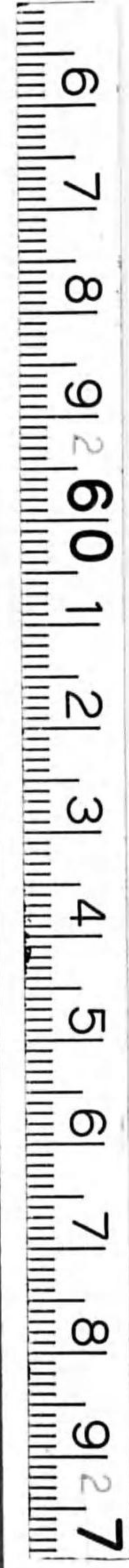
文 部 省
教 育 映 畫 時 報



9

昭 和 七 年 九 月

文 部 省 社 會 教 育 局



始



目次

發行所寄贈本

一、新作映畫解說……………一

地震と震災……………一三

工業……………一三

教育映畫評論……………三四

教授上に於ける視覺的補助……………三四

教育映畫時報……………四七

教材映畫製作懇談會……………四七

滋賀石川兩縣の教育映畫目錄刊行……………五〇

四、文部省製作映畫頒布規程……………五四

五、文部省製作映畫貸與規程……………五七

六、文部省製作映畫目錄……………六〇



279-56

新作映畫解説

地震と震災

全三卷



この映畫は、地震學界に於ける世界的權威今村明恒博士指導の下に製作したもので地震の迷信、地震の起因とその現象を説明し、併せて木造耐震建築と震火災豫防をと強調し、地震と震災に關する知識の普及に資せんとする通俗科學映畫である。

(太字はタイトル細字は説明字句)

昔の人々は……

日本が鯀の形をして居つたり、又大地震前に鯀が多く飛び出すことなどから地下に鯀が居るものと考へ、それが活躍するとき地震が起るのだとして居ました。

しかし今日では

道路や建物の床に石や煉瓦や木片を敷いてあるやうに

大地もこのやうに澤山の敷石即ち地塊から出来て居ることがわかりました
例へば

近畿地方淀川附近の地塊 (線畫)

この圖で明瞭なるごとく大阪灣に注ぐ淀川流域はこの様な地塊の連結から出来て
ゐる。

關東地方の地塊 (線畫)

地塊は種々の原因で動きますがこの動きの急な時に地震が起ります

大正十二年關東大地震に活動した地塊 (線畫)

昭和五年伊豆大地震に活動した地塊 (線畫)

明治二十四年濃尾大地震に活動した地塊 (線畫)

伊勢灣は一層開きこの邊で本州が二つに分れやうとする傾向が現れて居ます。

震源から出た地震波は縦波と横波とに分れて傳はります

(波動模型による)

震動の方向へまつすぐに進むのと、震動の方向に直角に進むのとの二つでありま
す。

縦波 速く傳はり小さく揺れる

地震の際の初動又は前揺れといふのがこれで秒速五籽であります。

横波 遅く傳はり大きく揺れる

主動本揺れ又は揺り返しといふのがこれで秒速三・二籽であります。

震源までの距離はこの二つの地震波が地上に達した時間の差で計れます

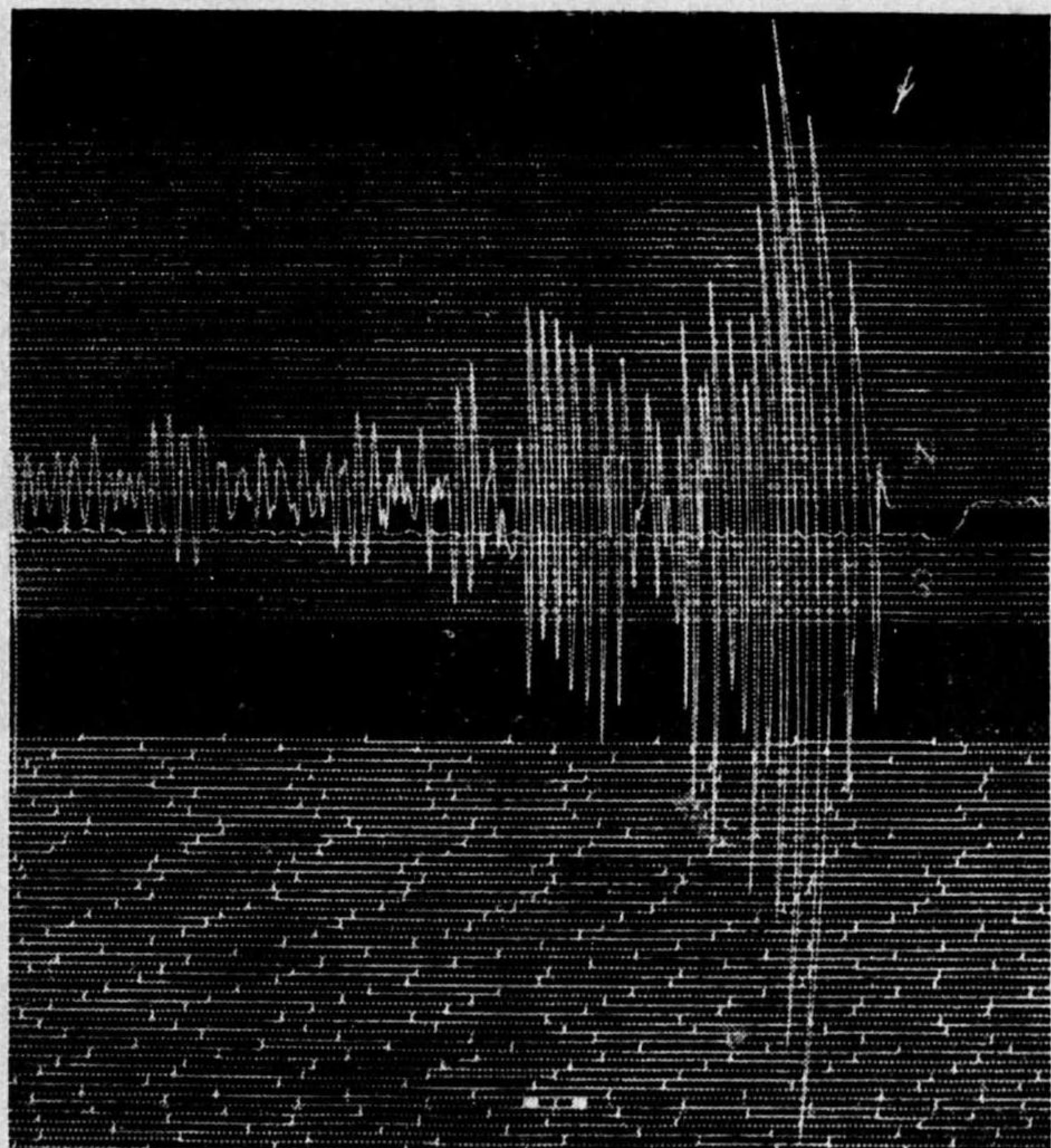
地震計 震動の大きさ時間方向を計ります

つまり地震の大きさを計るものです。

これには色々な様式がありますが、何れも三個一組で上下、東西、南北の震動を
計り、それを組合せて實際の地動を知る様になつて居ます。

地震計の記録 (實驗)

大きく白く光つてゐる錘が不動點と云つて地震の際にも空間の同一場處を占めて
動かないで居るものです左のが上下、右のが水平の震動に動かないのでありま



す。記録用紙は時計仕かけで移動します。この実験は人手を用ゐて動かしましたので、実際の地震のやうに微妙な震動が得られませんでしたが、大體に於てこの書で解るやうに器械が揺れても錘は動きません

北伊豆地震の記録、昭和五年十一月二十六日

午前四時三分に東京帝國大學地震學教室で記録されたものであります、最初のが南北次のが東西の震動記録であります。

大正十一年四月（二十六日）浦賀海峽地震の記録（東京觀測）

この記録を分析すると

この三つの矢はそれぞれ上下 南北 東西の震動を記録する針と思つていただきます。記録用紙は時計仕掛けで一定の速さにくり出されて來ますが、針は

地震のない時には直線をゑがきます

地震がおこりますとまづ前に説明した

前揺れ——縦波

が記録にあらはれて來ます。左の端はその時間を記録するところです。この前揺れは十秒間續きました。この記録の最初に表はれて居るところを見ますとこの地

震の

初動の方向

は東西南北のところ矢で表した如くで

南の方少し西寄り下へ向ひ動きました

震源は少し西寄りの南下方であります

なほその距離は前揺れが十秒間ですから八十軒であります。前揺れに續いて
本揺れ——横波

が記録されます。

破壊作用を持つのは横波即ち本揺れて俗に揺り返しといひます

最大震幅は東西の六センチメートルであります

大地震の起る場所は世界中極めて狭い細長い地帯に限られて居ますこれを地震帯と云ひます

例へば日本では日本海は岸に沿つて

内側地震帯

があり、大平洋岸に沿つて

外側地震帯

があります 世界的なのをあげますと赤道地圍の中央の横線がありまして、大平洋を圍んだ

環太平洋地震帯

とヨーロッパのアルプス地方コーカサス地方からインドのヒマラヤへかけて中心を持つ

アルプス・コーカサス・ヒマラヤ地震帯

とがあります、大地震はこの白く現れて居る地帯に限つて起るものゝやうであります。

地震の現象

地震が地上に現した影響の姿です。先づ明治二十九年八月三十一日陸羽大地震の経過を例にとつて、地震があつて、それがあさまるまでを説明しませう。八月二十三日 二十四日 二十五日 二十六日 二十七日 二十八日 二十九日 三十日こゝまでは大地震前日までの経過で

大地震の爲にはこのやうに小地震が數多く起ることがありますこれを前震といひますしかし多くの場合には前震なしに起ります

三十一日は大地震の當日です。午後五時六分にこの地震の親地震がありました。大地震の後には餘震が起ります。餘震は常に親地震の十分一以下の大ききさですから怖れるに及びません。

一日二日三日四日五日六日七日

と餘震が漸次數少なくなつて行つて居ます。

第一卷 終

第二卷

地塊の水平移動

地震の主要地塊の移動は周圍の地塊にも運動を起させます。

昭和二年三月七日奥丹後地震に活動せる地塊とその運動の方向（線畫）

これは峰山が全滅した時の地震です。

奥丹後には圖の如き多くの地塊がありますが、このうちの一つが地震を起した地塊で、その日本海に接した方では七十センチメートル程

隆起

しました、白い點を以て示した部分はそれでありませす。

運動の方向

は矢で示す如くであつて主要地塊の運動の結果が見られます。地塊はこのやうに横に水平にもずれることがあるものです。

地塊の傾斜

奥丹後のも傾斜しましたが東京の東部に當る

江戸川 中川 隅田川（線畫）

に亘つて存在する

江東地塊の傾斜（線畫）

も好い例であります。

このやうに次第に江戸川と隅田川との間が不平均に沈下して來ました。この圖は上下の變動を非常に擴大してありますから大變に見えますが

昭和三年五月二十一日午前一時の強震で中川隅田川の間と江戸川中川の間とに地塊の境界が明瞭に現れました。隅田川寄り（東方）の深部が六六・五センチメートルで、それから江戸川（西方）の方へ次第に高くなつて行つて居ます。これを江東地塊と名づけます。隅田川中川間の距離 五四〇〇メートル中川江戸川間 六四〇〇メートルであります。この水平の移動と上下の傾斜で地塊の形がよく想像されます。

従つて地塊相互の境に喰違ひが出来ます

これが断層です（断層模型による）

上下断層

濃尾地震に生じた根尾村の大断層

岐阜縣本巢郡金原村に明治二十四年十月二十八日の地震で生じたもので、向ふが隆起したもので地平面の差が六メートルあります。天然記念物に指定されて世界的に有名であります。

水平の断層

伊豆地震に生じた丹那の断層

有名な丹那トンネルの上に當る地方一帯に昭和五年十一月二十六日の地震で南北に走る断層が出来ました。水平の喰違ひは二（メートル）六五あります。

地七（山津浪）

軟弱な地盤の斜面に起ります

地震がなくとも起ることがありますが、山地では地震の際特に起り易い現象です。

地七り（線畫）

これも伊豆の地震に起つたものでこの下に幾つかの家と人命とが埋つて居ます。かゝる地勢のところに住む人の注意をうながします。

地割と壓縮

地割の附近には壓縮が同時に起ります

大正十二年關東大地震の際に東京市内に出来た大地割であります。

地割と壓縮（線畫）

都會のやうに地下に埋設物のあるところでは、この地割と壓縮は意外の被害をあたへます。



縮壓による地下埋設管の喰込み
（線 畫）

はしばしば經驗するところであります。これは一九〇六年のサンフランシスコの地震の際に彼の地の水道管が喰ひ込んだ様であります。

地割の開閉

西曆一七九七年二月四日南米イクアドル國リオバムバの地震で珍しく地割れの開閉があり人が落ちて死にました。極めて珍しい例であります。我國でも大分こ

のことをおそれては居りますが

日本には人畜に被害を及ぼす様な地割れ開閉はありません

局部的の陥没と隆起

接近した地域で同時に起ります

これも伊豆地震後丹那地方で撮つたものではじめの方が陥没あとの方が隆起であります。

今までのところが大體自然物に與へた影響であります。次に

建物の被害

はどうかといふことになりますと、これは強弱地盤の硬軟等によつて仲々一概には云へません。

この例は全部伊豆地震の際に撮影したものであります。

大移動

建物が土臺の上全部ずれたものです。珍しいことで割合に建物が丈夫な證據であ

ります。被害の多くは

倒壊

か傾斜であります。古い建物殊に建築材料が弱かつたり材料の接合が緊密でないものは危険が豫想されます。

二階家では階下よりも階上の方が安全です

それは二階家の倒壊では、階下のみ破壊が多く其他は階上階下諸共に破壊された例のみだからであります。地震の際に心得べきことでもあります

このやうに暴力を振ふ地震を防ぐことは出来ないてせうか

地震を防ぐことは出来ませんしかしその災害はこれを防ぎ或は少くすることが出来ます

それには

まづ家屋を……

堅固につまり耐震耐火構造にすべきであります。しかし家屋を全部耐震耐火構造

即ち、鉄筋コンクリートや

鉄骨コンクリート造

にすることはとても出来るものではありません。又コンクリート造なら何でも良いかといふに決してさうではありません。

コンクリート造は素人工事や施工不親切であると反つて非常な危険を招くことがあります

第二巻 終

第三卷

そこで、耐火性は欠いて居ますが

木造でも

充分地震に耐へ得るやう

震災豫防評議會

では家屋新築及び修理に關する耐震構造上の注意書などを作成して木造耐震構造に對する社會一般の關心を呼び起さうとしてゐます
こゝにある模型はこの注意書を基礎として假に造つたものでありますが、少し立派すぎました。

一般に使用するにはこれ程にしなくてもよろしいのであります。
先づ土臺に

燧ビウチ

を入れます土臺の平面へ入れる筋違であります。壁面へは大分筋違を入れるやうになりましたが、土臺に入れることは普及しないやうです。是非隅々にこれを用ひるやうにしたいものです。

筋 違

は可なり用ひられ出しましたが、これも出来るだけ用ふべきであります。従來も極く一部には用ひられて居りましたが

木材相互の連結を強固にするために用ふる金具の用例をこゝに二三示して置きます

ボールド

羽子板金ゴイタガネ

短冊金タンザクガネ

これが木造の耐震建てす

なほこの模型に欠けたものを實例によつてあげますと金具で

錠鐵アンク

錠鐵はフンドシ金と俗稱されて居ます。柱と梁との連結に羽子板金と並用されます。燧は土臺のみでなく天井裏にも用ひます梁と束等も金具で連結すべきであります。

角鐵 (アンクル)

方杖ホウゾウ

は横木と柱とを固く緊ぐ材料であります。このやうに

耐震建築にしても建築費の増加は坪當り二圓位にとどまります

是非この構造を採用して震災をまぬがれるやうにせねばなりません。
古い家屋には控柱^{ヒカ}金具等を用ひて補強します

これだけの準備をして置いて更に
家屋の強弱にかゝはらず大地震に際しては應急の處
置が必要です

急激な地震には一時家具の陰を避難所とする
ほか火のしまりを注意します。

家具が屋根を支へた例

は一再到りませぬ。

第一の例は伊豆地震の際の茅野小學校次は明治
四十二年八月の姉川大地震後の田根小學校、學
童を多く預かつて居る小學校の人々の参考とす
べきものであります。



最後に同じく姉川大地震で普通の農家の屋根を家具で支へた例で、いづれも決して珍らしい事ではありません。

大地震の激動は一分間と續きませんその後に起る火災で震災は何十倍にもなります

火の用心は割合にしますが、發火し易い薬品を専門に扱ふ所からさへ不注意にも
失火することがあります。

震災豫防評議會では火災を起し易き薬品の格納法に關する注意書を發行して特に
これに注意して居ます。

薬品棚は倒れぬやうに薬瓶は落ちないやうに

それぞれ方法をつくし

發火し易い薬品は隔離して砂中へ入れて置くようにします

大地震の際には充分に用心して居ても何處からか火を發することがあります。こ
ういふ時には

下敷になつた人を救ふ前に先づ火を

消さなければなりません。

これは心すべきことで、下敷になつた人を救ふために火を放置してその火のために、遂に人命を放棄しなければならなくなつた例も多いのであります。

最近百年前の大震災をかへりみると

その大半は火に災されて居ます

(線 書)

文化 元年 一八〇四 羽後 象潟 五、五〇〇棟

一八一〇

一八二〇

文政十一年 一八二八 越後 三條 一一、七五〇 中火災

一八三〇

一八四〇

弘化 四年 一八四七 信濃 越後 三四、〇〇〇 中火災

一八五〇

安政 元年 一八五四 伊賀伊勢大和 五、〇〇〇 中火災

東海 南海 六〇、〇〇〇 〔中火災
大津波

安政 二年 一八五五 江 戸 五〇、〇〇〇 中火災

一八六〇

一八七〇

明治 五年 一八七二 石見 濱田 五、〇〇〇 中火災

一八八〇

一八九〇

明治二十四年 一八九一 濃 尾 一四二、一七七 中火災

明治二十七年 一八九四 出羽 莊内 六、〇〇六 中火災

明治二十九年 一八九六 陸前陸中陸奥 一〇六、一七〇 大津波

羽後 仙北 五、九一一 小火災

一九〇〇

明治卅九年 一九〇六 臺灣 嘉義 六、七六九 小火災

一九一〇

一九二〇

大正十二年 一九二三 關 東 五七六、二六二 大火災

關東大震災では (線 畫)

東京府だけの被害 (概數)

全潰家屋二万棟 壓死者三千人

全焼家屋三三万棟 焼死者六万人

火災の爲に被害が二十倍以上に増加して居るのであります。

自然現象たる地震は防ぐことが出来ません

しかし、地震による災害殊に火災は防ぐことが出来ます。

必ず防がねはなりません

終

セメント工業

全三卷

梗概

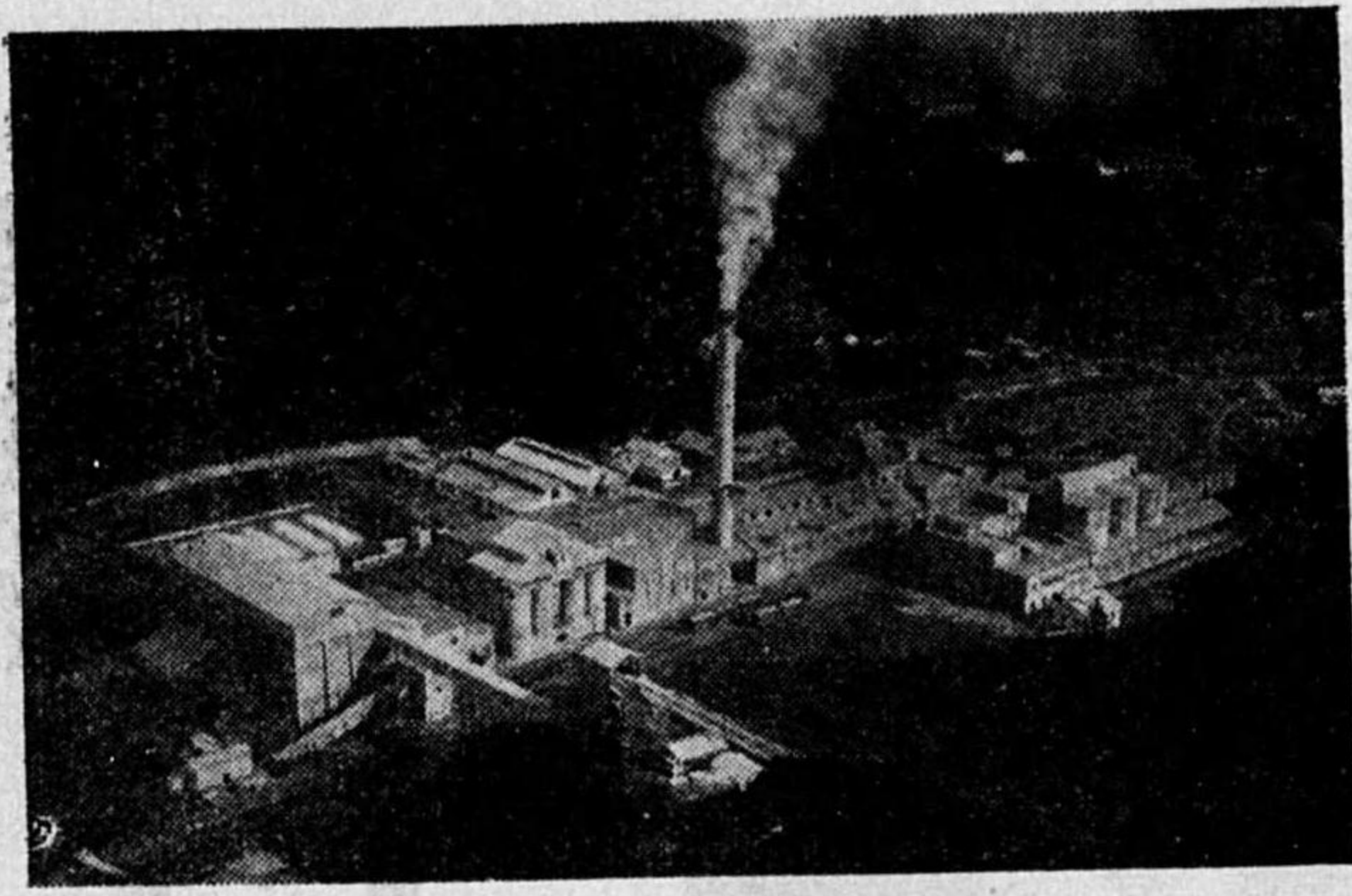
現代文化施設に最も重要なセメントの製造工程を科學的に説明し、尙細部は線畫を以て表示して平易に現代科學の威力とセメント工業の我々日常生活に對する使命を映畫化するものである。

内容

第一卷

セメント工業

我々が道路を行く時、目に映じ實際に觸れる多くの建築物橋道路等殆んど總べてがセメントで即ち鐵筋コンクリートで……造られてゐるので



ある。かくの如く

セメントは現代の土木建築工事の構成材料として最も重要なものである

天然に産する天然セメント高爐セメント礮土セメント等

セメントには多種類あるが一般に使用されるのはポルトランドセメントである

これが所謂

セメント

である。では、セメントは如何して製造されるか

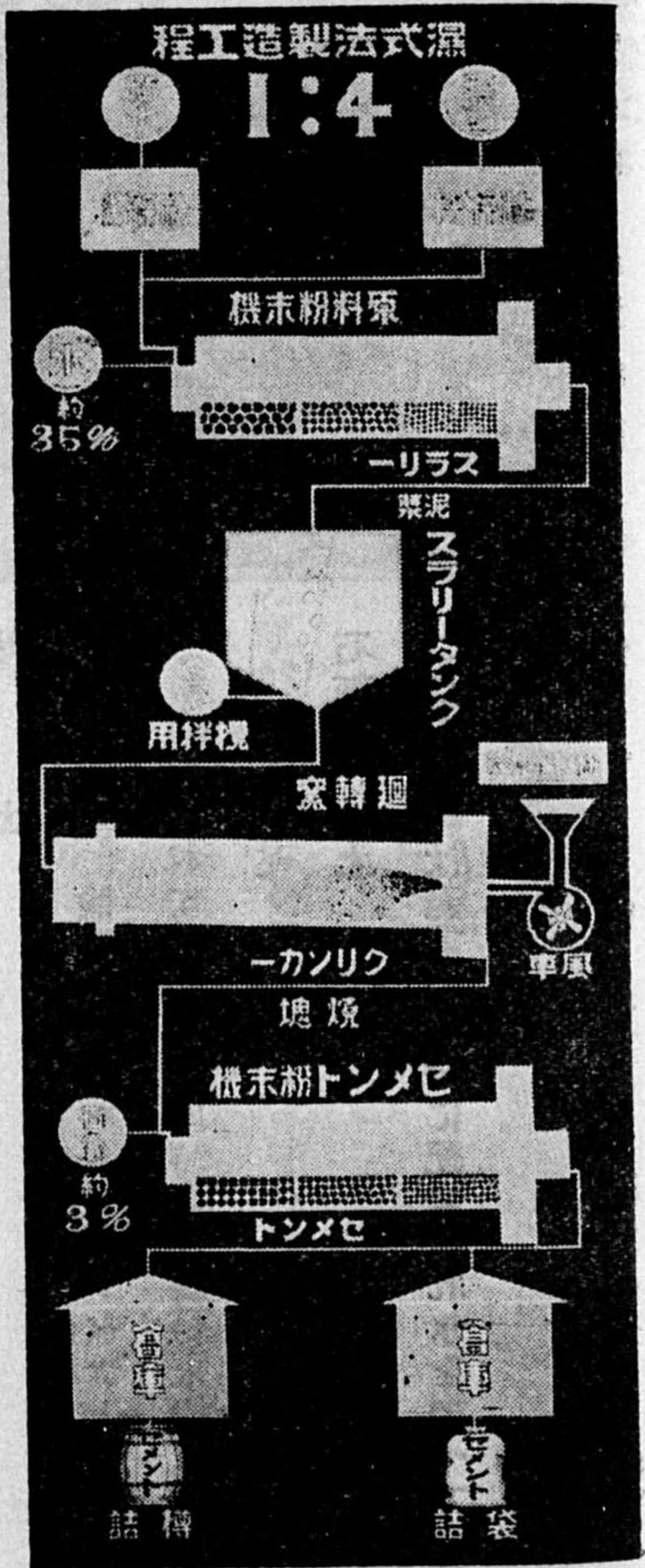
製造方法を大別して

乾式方法（原料を乾燥して行ふ）

湿式方法（原料を水で混合して行ふ）

の二種とする

現在乾式方法も廣く行はれて居るが湿式方法の原料混合物の均濟であることが更に優れてゐるのである



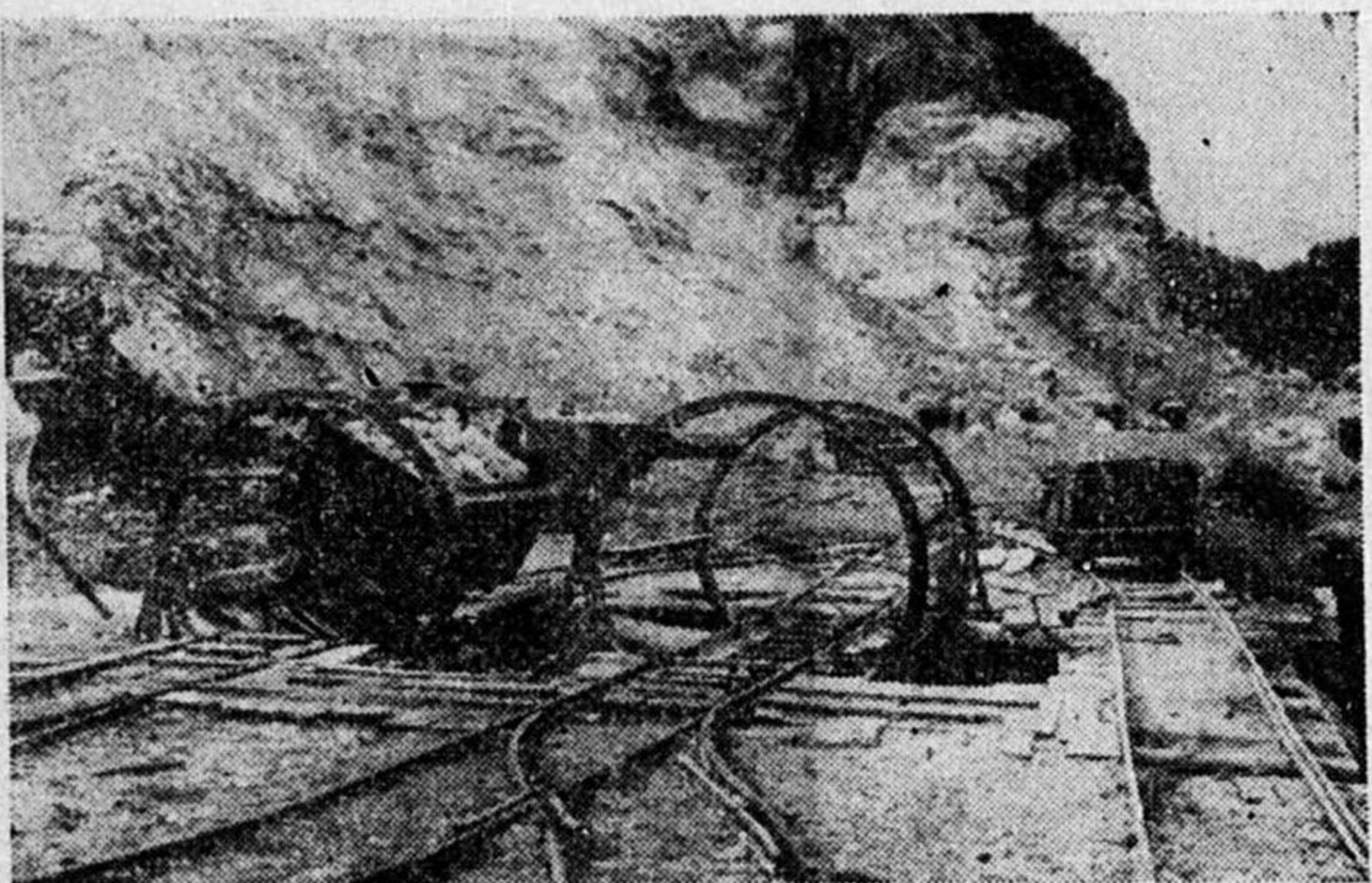
原料は主として 石灰石 粘土

石灰石

原山から爆發採掘した石灰石は適當の大きさに壊して運搬車で運び、インクライ
ンで少しの動力も用ゐずに自分の重量で工場内に送られる。次に

粗砕機

大割機械 小割機械で粗碎される



大割機械では石灰石は約三〇種から十三種位の大きさになり更に小割機械で二種内外迄に碎かれベルト・コンベアーで原料粉末機へ送られる一方の原料

粘土

は貨車で輸送されベルト・コンベアーで粗碎機に送られて石灰石と同時に原料粉末機に送られるとして

石灰石 粘土

二つの原料は適當の割合に配合され水を加へて原料粉末機に入る

水約 35%

粉末機

大きさの違った鐵球のころがる内で粉末にされる



原料粉末機内では多くの鐵の球が轉つて居るので耳もさける様な物凄い音をたてゝ廻轉し、通常の聲では話などは到底出來ない。 第一卷 終

第二卷

かくして原料は攪拌粉末にされて

原料粉末機内で泥漿（スラリー）となる

ドロ／＼した丁度泥水のやうなスラリーは、長い溝を流れてエレベーターで汲み上げられタンクに送られる、

タンクに送られたスラリーは空氣泡で攪拌され廻轉窯に運ばれる

タンクに貯藏され種々其の成分を匡正されたスラリーは機械で一定量汲み取つて

長い溝を流れて廻轉窯の入口に來る

廻轉窯 直徑約3米半 長さ約60米

この廻轉窯の内部は耐火煉瓦で内張りして一、五〇〇度内外の高温にも耐える様にしてあり、丁度煙突を横にした様である。僅かに出口の方に傾斜(4/100)し、一分間に約半廻轉つまり約二分間で一廻轉するのである。床等は熱くて手で觸ることが出来ない。

セメント焼成に必要な石炭は粉末にして風車で窯に吹込まれる

職工は絶えず窯の内部の焼けて居る色工合で、焼け過ぎたか、或は焼け足りないかを見分け、すぐにそれを匡正する。

この大きな廻轉窯のすべてのことをたつた一人の職工で處理することが出来、状態がみな計器に現はれて來る。即ち、

原料スラリーの入れ方、廻轉の工合、石炭の量及空氣の量、煙道ダンパーの加減等は勿論此の窯の餘熱を利用して運轉してゐる所の餘熱氣罐の風車の廻轉、燃燒ガ

スの温度通風等あらゆることを極めてたやすく調節することが出来るのである。

窯のまはりを廻つて居るくさりの入つた

冷却機

の中に入り

スラリーは半熔融し次に冷却されて濃緑色の粒状塊となる

これは

クリンカー(燒塊)

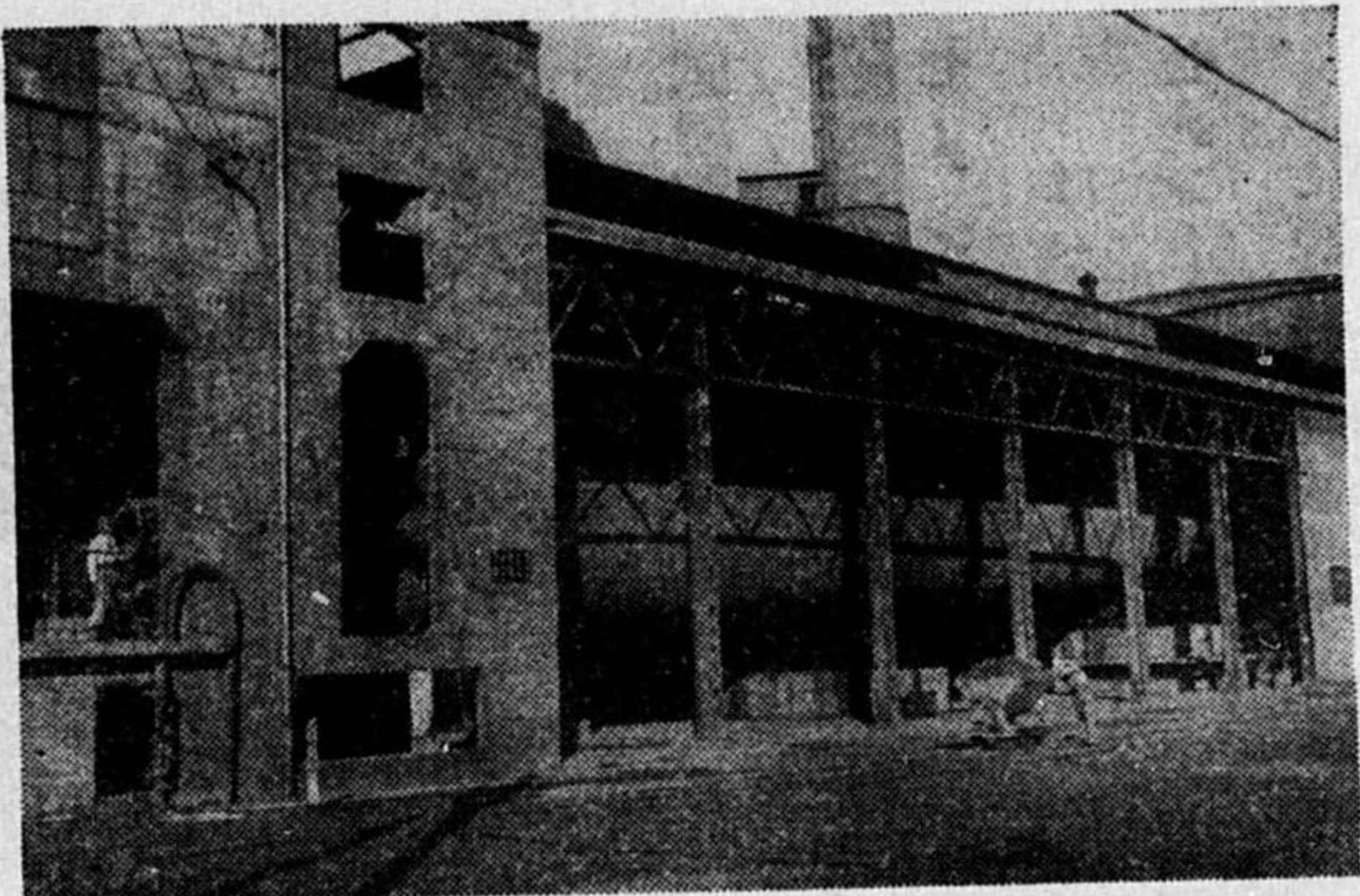
と呼ばれる。

次に長いシエーキング・コンベアーで運ばれる。そして

第二卷 終

第三卷

冷却されたクリンカーはセメント粉末機内に送られる



この粉末機に入る時にセメントの凝結時間を加減するため

石膏約3%

をクリンカーと同時に入れる。

セメント粉末機は前の原料粉末機と内部の構造及作用は變らないが摩擦のために熱が出るので外から水をかけて冷却する。

かくてクリンカーは細末にされて、セメントは出来上つたのである。

出来上つたセメントはベルト・コンベアーで倉庫に運ばれる途中で、

試験試料採取機

で採取されて試験室へ送られる。

セメント

はベルトコンベアー、スクリューコンベアーで

セメント倉庫

に貯藏される。次にセメントは壓搾空氣で袋詰樽詰の工場に送られる。

袋詰

袋には麻袋と紙袋とがあるが現在は大抵紙の袋を用ゐる。袋の中に一定量のセメントが入ると、自動的に降りて、ベルトに乗つて直ちに貨物車に積込んで送られる。

樽詰

昭和六年の世界強國の製造高を示せば(線畫)

- 米 八億六千六百萬圓
- 獨 二百五萬五千圓
- 英 百二十三萬六千圓
- 日 百三萬七千六百圓
- 佛 八十七萬九千五百圓

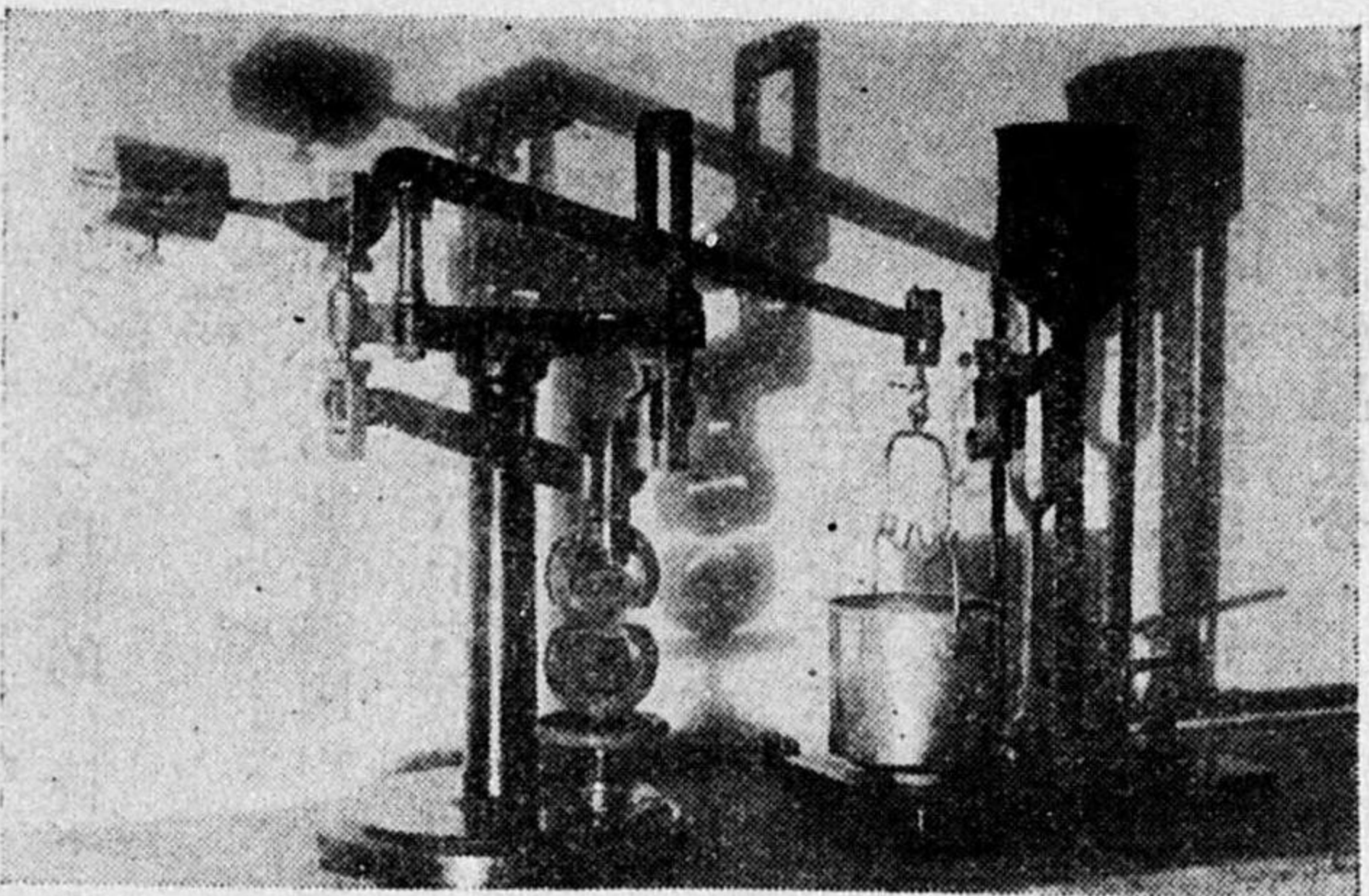
試験室

製品は各種の試験を行ふ

セメント化學成分

- 石炭 65%

珪酸 21%



礬土	6%
酸化鐵	3%
其他	5%

強度試験

強度試験には耐壓試験、抗張試験等各種の材料強張試験を行ふ。他に比重粉末の程度凝結時間膨張性龜裂の有無等の試験を行つて後始めて市場に出るのである。

セメントは工事に

迅速
永久
耐火

各種工事に使用する謂所コンクリートは大體

セメント 一、位

砂 二、位

砂 利 四、位

の割合で水を混合して用ふ。

家庭で水を使用する場所、浴場の流し、水溜等はモルタルと稱し

セメント 一、位

砂 三、位

の割合で水を混合して用ふ。

セメントは非常に原料は安價なものであり、出来上つたセメントは實に重要な材料である。

斯の如く原料安價といふことが工業としての第一條件である。

終

教育映畫評論

三四

教授上に於ける視覺的補助

この論文は米國の活動寫眞技術家協會の機關誌、Journal of The Society of Motion Picture Engineers に掲載されたものを譯出したもので、原文の筆者はイーストマン教授用映畫會社のシー、イー、ベイヤ氏である。ベイヤ氏は活動寫眞技術家協會ニューヨーク支部會にこの論文を提出し、支部會々合の席上でイーストマン教授用映畫會社の製作になる「誘導電流」「太陽のエネルギー」及び「食物と生育」なる三種の教授用十六ミリ映畫を披露したる後、現在米國に於ける學校教授に映畫使用に關する實際問題に就て種々討議するところがあつた。討議の内容に就ても、右雜誌上に可なり詳しく掲載されてあるが、こゝには譯載を省略することにした。尙、イーストマン教授用映畫會社は、小學校、中等學校等に使用し得べき各種の十六ミリ教材映畫を既に百五十種程製作配給しつゝあり、其の一部は現に我が國にも輸入されてゐる。

本稿の目的とするところは、教授上に於ける視覺的補助としての活動寫眞の使用の諸種の様態と説明せんとするにある。

言語の使用に關しては、具象的なる經驗が欠くべからざる條件であり、實際教授に當つて、言語上の穿鑿が屢々問題になることを認識せる教育者達によつて、この欠點を矯正すべき何等かの方法、機構若くは材料が要求されつゝある現状を説明し、視覺的補助が適當に使用さるゝ時は、知識の進展の基礎として有用なる人生上の一般の經驗を學者に供給するものなることを提言するにある。(中略)

或る事物を習得せしめんとするに當つては、少くとも四つの方法がある。即ち

- (一) その物自體を研究せしむるか
- (二) その物の影像又は再現せられたる物を研究せしむるか
- (三) その物に就いて語るか
- (四) その物に就いて讀ましむるか

の四つである。前述の諸方法の效果の順位に就いては、一般に前掲の順位に等しき如

く認められてゐる。これは前掲四方法中、後の二方法即ち(三)、(四)は、それに就いて述べらるべき物に對して、學習者側に豫め或る程度の知識を假定してかゝらなければならぬからにもよるのみならず、自體、口によつて語らるゝ言句、又は印刷せられたる辭句等の如きは、一個人にとつて、彼が彼の經驗内容にそれ等の符號の解釋の基礎となるべき知覺を有する場合に於てのみ、はじめて意義を生ずべき、語られたる又は書かれたる記號に過ぎない。(中略)

獨逸の一出出版物は、記號に關する聯想の簡單なる説明として、次の如き記事を掲載してゐる。

某氏は夜晩く歸宅したが、家の中に入る事が出來ない、彼は鍵を忘れたのである。そして、彼は再び斯の如き失念をなすまいと決心した。そこで彼は、彼のハンケチの四隅に大きな結び目を作つた。これによつて彼は明日鍵の事を思出さうといふのである。

某氏は何等心理學に就いて關知しない。併し、彼がこの場合とりつゝある行動は、

その過程に於て完全に心理學的なものであり且つ効果的なるものである。その翌日の何時にか某氏がそのハンケチを取り出すと共に、その結び目は彼の眼につくに相違なく、同時に彼の腦裡に鍵といふ觀念を浮び上らせるに違ひないのである。然し、かくの如く、ハンケチの結び目と鍵といふ二つの物の間に何等の相似點もないのに關らず、何故に、結び目を見る事によつて、鍵といふ觀念が惹起せしめらるゝのであらうか？即ち、これは某氏がその結び目を作りつゝあつた時に、鍵といふ物について強烈に彼の心を集注してゐたが爲に、再びその結び目を驗するにあつて想起される聯想は鍵に關するそれに限定されたのである。換言すれば、「結び目」をいふ事實と「鍵」といふ概念との間に、ある種の聯結が生ぜしめられた爲に、「結び目」と知覺することも亦「鍵」といふ思惟を強制するものとなるのである。一般的な言葉でいへば、この種の關係は「觀念聯合」(Combination of ideas) と稱され、學術的には「聯想」(Association) と稱せらるゝものである。

斯くの如き聯想は、日常我々の頭腦中に頻繁に生ずるものであつて、殊にその甚だ

しき發生を見るのは言語に於てあると云ひ得る。即ち、言語とその意義との關係、それ等の言語が我々の聽覺を通じ又は視覺を通じたるもの、若しくは、我々自身が語り、書きたるもの、別なく一括してその關係は聯想なりといひ得るのである。實業家及び教育を業とする人達は、既に遠き過去に於て、經驗の裏付けなき場合の言語なるものは、偶然にそれを目視せる第三者にとつて、ハンケチの結び目が何等の意義をもたないと同様に、無意味なる符號に過ぎない事を認めてゐるのである。既に三世紀も以前より、具象的經驗といふもの、使命の必要は、諸教育大家の教育大系中に鼓吹されつゝあるものである。十七世紀に於て、モラヴィヤの大教育改革者コメニウスは「一般社會」より學ぶといふことを提唱してゐる。彼は (Orbis Pictus) なる書を編纂して、該書中に於て初めをその主題とする物を視覺の對象とする爲に挿繪を使用した。この書を源として現代の繪圖入教科書が進化して來たのである。廣告技術家も亦彼等の永年の注意深き經驗によつて、圖繪及び統計圖表等のもものが相應の効果を有する事を證言してゐる。

十八世紀に於ては、スキスの教育改革者ベスタロッチ及びフランスの評論家にして哲學者なるルッソーの二人が彼等の教授に當つて頻繁に視覺的材料を使用してゐるのが見受けられる。彼等は「自然に歸れ」の説、即ち、人生は生活することのみによつて初めて學び得るものであるといふことを提唱したのである。斯くして、物自體に就て學ぶといふことが現代の實驗研究及び野外旅行の基礎となつたものであつて、これ等は視覺教育の他の様態を形成しつゝあるのである。

下つて、十九世紀に到り、ドイツの教育家で幼稚園教育の創始者であるフレーベルは、特に視覺と觸覺による教導の一方式を主張した。その間、寫眞術及び寫眞製版術の發明は、それ以前に於ては夢想だに許されなかつた廣範圍にまで、書物、新聞紙、雜誌等の挿繪を可能ならしむるに至り、而して、この寫眞術より、ステレオグラフ實體寫眞、幻燈、活動寫眞等の視覺的補助の新形態が派生するに至つたのである。

今世紀に及んで、北米合衆國に於て、從來の教育課程に多大の影響を與ふべき大變化が齎らされた。即ち、この國の小學校及び大學專門學校が廣範圍に涉つて本然の興

味と能力とを有する少年少女の雲集する所となつたのである。この混然たる興味と能力とを有する生徒を包含する大クラスに直面して、これが教導に當る教師達は、諸種の教授方法を適用することなく、單に教科書によつてのみ授業をなすといふ懈怠極まる方針を余りにも屢々適用して來たのである。

この視覚的材料使用の欠除の結果は實に顯著なるものがあつた。ダクラス教授は彼の著書「高等學校教授に於ける現代的諸方針」(The Modern Methods in High School Teaching)中に次の如く述べてゐる。『授業は教師によつて、あたかも單なる講義といふもので精密且つ精彩ある想像を生徒等に與へ得ると斷定してしまつたやうに、或は又、想像など、いふものは學習上大した必要を持たぬものであるとされつゝあるやうに、一車千里に進行せしめられてしまふ、それはあたかも多數の教師達にとつては、質問に對する正當なる回答を生徒に暗誦せしむるのが究極の目的なのであつて、生徒がはたして複誦させらる言語を、正當に理解しつゝありや否や 又は、全然理解してゐないのだといふやうな事は問題にしてゐないかのやうに見受けられる。』

この教室暗誦的授業がアメリカの學校教育に及ぼした影響は、實に遠大且つ根深い害毒となつて現れた。ジョン、デュウエイ教授を盟主とする二十世紀の教育改革者等は、この害毒及びこの他の附隨的欠陥を矯正すべき、學校教育の革正案を提唱した。我々はこれ等の幾多の望ましき革正案の一つを説明する爲に、先づ、形式的學校教育と社會化されたる學校教育との簡單なる比較に就て述べて見たいと思ふ。

形式的學校教育に於ては、學生はその價值を知ることなくして、又はそれに無關心なるまゝに、彼等の課業を受け、それを暗記し、それを複誦する。教師達は又、最初からその課業の主題に留意し、それに對して、前記の如く人工的に種々の授業項目を作り上げ、又、應々にして教師が凡ての知識に對する基礎的頭腦を特有するものであることを思考せしむるに至るのである。これに反して、社會化されたる學校教育に於ては、教師は先づ、生徒自身に留意し、彼等の本來の能力を指導し、彼等の生徒と共に學ぶといふ態度をとるのである。生徒は又、彼等自身の本來の興味を開發し、目的意識を以て考へ、それに従つて彼等の思考を發表するのである。

然し、この形式的學校教育より社會化されたる學校教育への目的の轉換をなさんが爲には、先づ、從來の教授方法、機構、及び材料の修正を必要とする事は言を俟たない。適當に撰擇され、使用さるゝ時は、視覺的材料がこの目的の完成を助けて力あるべきことは疑もない。個人的議論を掲げること避くる爲に、我々はこゝに、視覺的材料が授業に際して効果ある補助なる事を示しつつある數種の注意深き誇大にわたらざる實地報告の或るものを引章して見度いと思ふ。

視覺教育 (Visual Education) に於けるフリーマン博士の報告によれば『視覺的補助の機能は、當該教授の性質及び目的によつて決定せらるゝものである。教授の目的は或る場合に於ては、思考力、觀察力、綜合力、應用力等に基礎を與へる事であつて、この基礎は具象的物に關する直接的經驗に存するものである。又、或る場合に於ては、教授の目的が、この基礎の上に上層建築を構成せしむるにある事もある。(中畧) 圖解といふものが具象的なる經驗のあるものを獲得せしむる爲に貴重な一方法たる事は實に明白である』とある。

ノウルトン及びチルトン兩氏はアメリカ歴史の教授に當つて、活動寫眞が『價値ある知識の獲得及び把持に素材を提供し、特に史實に關して時代と異なる相互關係ある事を悟らしむるに効果があつた。』と報告し、又この實驗によつて『活動寫眞が教室討論に参加する生徒の數を増加せしめ』且つ『口頭教授の場合に於てよりも、活動寫眞を見せた場合に於て、生徒等はより多くの補助的歴史參考書を自發的に讀むやうになつた。』と述べてゐる。

ウッド及びフリーマン兩氏は、地理及び科學の教授に於けるイーストマン式實驗の結果として、活動寫眞は『生徒をして世界の物質方面に關する正確且つ明瞭な觀念を得さしむるものである。而して、これはその最も直接なる機能をなすものであるから、映畫中に包含せしむべき素材の撰擇に當つては、この事實を常に念頭に置くべきである。正確且つ明瞭な觀念を獲得せしむることの究極の目的は、勿論生徒の思考に對して、確實性、健全性を與ふる事であつて、從つて、生徒に提供さるべき材料は、生徒をしてこの種の基礎知識を養生せしむる爲に必要な材料でなければならぬ。』

故に、材料の選擇は勿論、その映寫の方法、前後の解説等は、その授業の究極目的に従つて決定さるべきものである。但し、これは決して或る映畫の本來の目的を無理に歪めて、直接にそれらを抽象的なものを教授する手段となせといふのではない、人類は抽象的な觀念を表明する手段としては、既に、これ等の實物使用、又は、實物の影像の使用に遙かに優れた道具を發見してゐる。その道具とは即ち言語である。この言語にとつて代らうとする事は決して映畫の本質的機能ではないのであつて、言語に對して豊富な明確な意義を與ふべき直接經驗を生徒に與ふる事が眞の映畫の機能なのである』と結論してゐる。

映畫の提供は學生に對して、學習の過程に於ける不可欠の出發點としての、平等な精神的満足を與へる。教室映畫が教授用映畫たらんには、該映畫中に包含せらるゝ材料が整然と配列せしめられ、且つ學生が全體として眞の知識を獲得し得べき見聞を映畫中から綜合し得るやうに適當なる順序を以つて提供せられねばならぬ。映畫と共になされる「講義」は學生にとつては知識の實際となる。教師及びクラス全員はそれに

よつて、口頭によつて行ふ辯論の價値を判定し得る事になり、討論に際して無駄な時間を浪費せずに済むのである。通常の授業に於ては、符號の解釋即ち或る辭句に對して、事實を綜合し意義を決定する爲にあまりに多くの時間が浪費さるしが爲に、學習をそれ以上に發展せしむる餘地は殆んど残されないといふ有様であるが、活動寫眞を使用する時は、授業主題となるべき材料を提示するに要する時間は非常に短縮される、斯くの如くして、節約せられたる時間は、これを教授に於て最も重要なる、社會化される暗誦の形式により討論を通じての事實の類化及び綜合等に用ゆる事が出來、この新經驗と舊經驗の類化によつて、學生は初めて彼等の知識を進展せしむることが出来るのである。從來の教授法に於ては、材木を集めて足場を造るのに、余りに多くの時間を要するために、肝心の建築物を建てる時間が無くなつてしまふかの感がある。

結論するに、映畫は確然たる教授の目的に對して使用せらるべきものである。即ち映畫は不正確な部分的な想像に對して、常に全體的な具象的な經驗を與ふる機能を有する。又、映畫は言語符號に對して實物基礎を與へる。映畫は、學生の注意に最も直接

に通常の経験の一般を提供する。映畫は、社會と學校との間に存する溝壑を聯絡し、學校をして時代に則した社會生活により接近せしむるものである。映畫は、新しき話題に對する興味を興へ、興味あり且つ精彩ある材料を使用する事によつて、學生に魅力ある出發點を興へる。映畫は、興へられたる課題又は研究題目につき攝要するに有効なる補助となるといふのである。

教師は映畫を使用する前に、注意深き試寫と適切なる教案を豫定することにより、十分の準備をなすべきである。

又、生徒には映畫を觀せる以前に於て、確然たる研究課題を興ふべきである。而して又、映畫の提供は必ずその後生徒をして新たに獲得したる學習上の要素を、舊き要素と綜合すべき討論を伴ふべきである。

教育映畫時報

教材映畫製作懇談會

教育上に於ける映畫の利用が日と共に盛んになるに従て、最近漸く各地大都會に於ては教室授業にも映畫が使用されるやうになり、その使用映畫即ち教材映畫の製作及利用に關する諸問題が教育界及び映畫界に於て論議検討せらるゝやうになつた。

文部省に於ては夙にこの傾向に鑑みて既に一二年來先づ通俗科學映畫試作に力を致してゐたが、今回博くその問題を考究することとなりその參考として教育の實際家及び教材映畫問題研究家の意見を徵することとなつて、二月十二日午後一時より文部省會議室に於て教材映畫製作懇談會を催した。出席者は左記の通り東京市教育映畫調査委員を中心として文部省内の關係局課員、小學校主事等にして、協議題は教材映畫の根本問題に發し現状を討究して、今後の對策に及んだ。この會議の結果は一般教育者、教育映畫關係者を鼓舞せしこと頗る大にして極めて有意義な會合であつた。

協議 題

一、映畫を教授上に利用する最善の方策に就て

(イ) 教授上に映畫を利用したる効果に就て

教授上映畫を利用して最も効果ありと思考せらるゝ學科目並に教材に就て

教材映畫の範圍及其の製作に就て

(ロ) 教材映畫の利用及配給に就て

出席者氏名 (順序不同)

秋保 安治 文部省東京科學博物館長

肥後 盛熊 東京府視學官

藤井 利譽 東京市教育局長

佐々木 秀一 東京高等師範學校附屬小學校主事

堀 七藏 東京女子高等師範學校附屬小學校主事

櫻井 美 東京府青山師範學校附屬小學校主事

二階 源市 東京府豊島師範學校附屬小學校主事

兒玉 東市 東京市教育局視學

關野 嘉雄 東京市社會教育課

西川 幸次郎 芝區赤羽小學校長

上沼 久之丞 淺草區富士小學校長

前島 卯市 本所區茅場小學校長

宮川 菊芳 牛込區愛日小學校長

關 猛 私立成城小學校

稻田 達雄 全日本活映教育研究會

田島 太郎 内務省警保局

權田 保之助 民衆娛樂調查委員

三橋 逢吉 同

板垣 鷹穂 同

富永 平次郎

文部省囑託

(文部省側) 關屋社會教育局長、小尾庶務課長、中田、宮本社會教育官、映畫係員、青木編修課長、圖書局員、普通學務局員、

滋賀石川に於ける

教育映畫目錄刊行

昨年、茨城縣(學務課)名古屋市(教育映畫協會)等に於て映畫目錄を作製せられたが、本年に入りても亦既に滋賀縣映畫教育聯盟及び石川縣社會教育課に於て各特色のある映畫目錄の刊行せられたことは、漸く映畫目錄の價值を認められて來た證據であつて、この傾向は地方に於ける教育映畫發達上眞に喜ばしいことである。そこでその内容の概略を紹介し、將來に於ける映畫目錄編纂上の參考としよう。

○滋賀縣映畫教育聯盟映畫目錄 (昭和六年十二月一日現在)

(一) 所藏映畫目錄(簡單なる内容説明を附す)

滋賀縣映畫教育聯盟規約

滋賀縣映畫教育聯盟事業概要

(二)(三)(四)

縣廳及關係團體所管フィルム一覽

第四項は第一項に次ぎ重要であるがその備考に「本調査は本縣各課に依頼してその資料を求めたるも回報なき云々」とあつて、調査者の苦心の程が表れてゐるが、かかる調査要求に接したる場合、被調査者は必ず回答の義務がある。尙、第四項には各課の所有映寫機數を記入したならば一層よかつたと思ふ。

映畫教育概要(石川縣社會教育課)

社會教育活動寫眞班派遣要項

社會教育活動寫眞班活動狀況(郡市別年度別、派遣回數、觀覽者數)

映寫機及フィルムの取扱

縣下教育映畫調査

映畫を利用せる縣廳内各課及團體名稱、その所有フィルム(形式別掲)

縣下映寫機調査

映畫を利用せる各課及團體名稱その所有映寫機數(形式別掲)

(六) 縣下映畫教育實施並晝間映寫裝置學校調査

學校名、暗室裝置の有無、フィルム供給先、映寫會の定期、不定期別、

(七) 金澤市教育映畫協會概況

第四、五、六各項は地方に於ける映畫教育運動の連絡上特に必要であるから參考までにその記載形式を左に摘記する。

映 畫 調 査

× × 縣 × × 會

種 別	題 名	卷 數	内 容 又 ハ 目 的	製 作 者

映 寫 機 調 査

官公衙學校團體名	映寫機名	臺數	備 考

映畫教育實施並晝間映寫裝置學校調査

學 校 名	暗室裝置ノ有無	定期映寫不定期映寫	フィルム供給先

文部省製作活動寫眞「フィルム」頒布規程

五四

○文部省告示第三百四十二號

文部省製作活動寫眞「フィルム」頒布規程左ノ通定ム

昭和三年七月六日

文部大臣 勝田主計

文部省製作活動寫眞「フィルム」頒布規程

- 第一條 文部省ニ於テ製作シタル活動寫眞「フィルム」ハ本規程ニ依リ之ヲ頒布ス
- 第二條 頒布セムトスル「フィルム」ノ名稱、内容、價格及出願期日等ハ其ノ都度官報ヲ以テ之ヲ公告ス
- 第三條 「フィルム」ノ頒布ヲ受ケムトスル者ハ其ノ旨文部省ニ申請スヘシ、但シ皇室ニ關スル「フィルム」ニ付テハ官衙學校圖書館博物館公共團體新聞社通信社及雜誌社ニ限リ申請スルコトヲ得
- 第四條 「フィルム」ノ頒布ヲ申請セムトスルトキハ皇室ニ關ヘル「フィルム」ニ付テハ別記第一號様式ニ依リ其ノ他ノ「フィルム」ニ付テハ別記第二號様式ニ依リ申請書ヲ文部省ニ提出スヘシ前項ニ關シ必要ト認メタル場合ハ申請者ノ身分等ニ付當該市町村長ノ證明書ヲ添付セシムルコトアルヘシ
- 第五條 「フィルム」ノ頒布ヲ受ケタル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 皇室ニ關スル「フィルム」ハ營利ノ目的ヲ以テ使用セサルコト
 - 二 皇室ニ關スル「フィルム」ハ第三條但書ニ掲グル者ニ對スル外之ヲ讓渡又ハ貸與セサルコト

三 皇室ニ關スル「フィルム」ハ特ニ保管ニ注意シ滅失又ハ盜難ニ罹リタルトキハ其ノ願末ヲ詳記シ直ニ之ヲ文部省ニ報告スルコト

四 複製改竄其ノ他ノ變更ヲ加ヘサルコト

五 「フィルム」ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ト連署シ其ノ旨遲滯ナク文部省ニ報告スルコト
前項第一號乃至第四號ハ「フィルム」ノ讓渡ヲ受ケタル者又ハ貸與ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第六條 頒布スル「フィルム」ハ代金ヲ納付シタル後之ヲ交付ス

代金ハ納入告知書ニ依リ日本銀行又ハ最寄日本銀行支店若ハ代理店ニ之ヲ納付スヘシ

附 則

大正十二年文部省告示第四百二十九號皇室ニ關スル活動寫眞「フィルム」頒布ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス
本規定施行以前ニ於テ頒布ヲ受ケタル「フィルム」ニ付遵守スヘキ事項ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

別 記

第一號様式

皇室ニ關スル活動寫眞「フィルム」頒布申請書

一 フィルム名稱

卷 數

昭和三年文部省告示第三百四十二號所定ノ事項ヲ遵守スヘキニ付右御頒布相成度

年 月 日

申請者

五五

住所

何々學校長

氏

名印

文 部 省 宛

第二號様式

活動寫眞「フィルム」頒布申請書

一 フィルム名稱

卷 數

昭和三年文部省告示第三百四十二號所定ノ事項ヲ遵守スヘキニ付右御頒布相成度

年 月 日

申請者

住 所

氏

名印

文 部 省 宛

文部省製作活動寫眞「フィルム」貸與規程

○文部省告示第三百四十三號

文部省製作活動寫眞「フィルム」貸與規程左ノ通定ム

昭和三年七月六日

文 部 大 臣 勝 田 主 計

文部省製作活動寫眞「フィルム」貸與規程

第一條 文部省ニ於テ製作シタル活動寫眞「フィルム」ハ本規定ニ依リ之ヲ貸與ス

第二條 貸與セムトスル「フィルム」ノ名稱、内容、使用料及出願期日等ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三條 皇室ニ關スル「フィルム」ハ公益ノ目的ノ爲ニ使用スル者ニ限り之ヲ貸與ス

第四條 「フィルム」ノ貸與ヲ受ケムトスル者ハ別記様式ニ依リ申請スヘシ但シ必要ト認メタルトキハ申請者ノ身

分等ニ付當該市町村長ノ證明書ヲ添付セシムルコトアルヘシ

第五條 「フィルム」ノ貸與ヲ受ケタル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 轉貸セサルコト

二 保管ニ注意スルコト

三 複製改竄其ノ他ノ變更ヲ加ヘサルコト

四 滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ顛末ヲ詳記シ直ニ之ヲ文部省ニ報告スルコト

第六條 「フィルム」ハ使用料ヲ納付シタル後之ヲ貸與ス

使用料ハ特別ノ事由アリト認メタルトキハ之ヲ免除スルコトアルヘシ

貸與シタル活動寫眞「フィルム」ノ荷造運搬等ニ要スル費用ハ被貸與者ノ負擔トス

第七條 貸與ヲ受ケタル「フィルム」ノ使用期間ヲ經過シタル後尙現品ノ返還ヲ遲滞セル場合ハ使用料ヲ追徴ス

第八條 貸與ヲ受ケタル「フィルム」ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ハ被貸與者ニ於テ之ヲ賠償スヘシ但シ

其ノ損害カ被貸與者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ依リテ生シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 使用料及賠償金ハ納入告知書ニ依リ日本銀行又ハ最寄日本銀行支店若ハ同代理店ニ之ヲ納付スヘシ

第十條 貸與シタル「フィルム」ハ本規程ニ違背シタル行爲アリト認メタル場合ニ於テハ貸與期中ト雖之ヲ返還セ

シムルコトアルヘシ

第十一條 一旦納付シタル使用料ハ理由ノ如何ニ拘ハラズ之ヲ還付セス

別記様式

活動寫眞「フィルム」貸與申請書

昭和三年文部省告示第三百四十三號所定ノ事項ヲ遵守スヘキニ付左記ノ通「フィルム」御貸與相成度

記

一 フィルム名稱

卷數

一 使用ノ目的

一 使用ノ期間

- 一 使用回数
- 一 使用場所
- 一 映寫機名稱
- 一 映寫技師ノ職氏名
- 一 説明者ノ職氏名

年 月 日

申請者

住所

職名 氏

名 氏

文 部 省 宛

フィルム名稱	巻數	米數	頒布價格
子供の育て方	2	590	236.00
○傳染病の病原體	2	420	168.00
○蚊の一生と疾病の傳播	1	263	105.20
○日本三景「雪の松島」	2	454	182.00
○壺 (線 畫)	1	305	122.00
○我國の製鐵工業	2	470	188.00
○我國の古武道	5	1,240	496.00
情 の 光	5	1,410	564.00
雪 の 北 越	1	255	102.00
○公衆作法「東京見物」	5	1,270	508.00
○航空船にて復興の帝都へ	1	295	118.00
昔 の 競 技	3	680	272.00
○蠅とそゝの害毒	2	610	244.00
○日本三景「天の橋立」	1	240	96.00
海 の 生 物	2	520	208.00
富士と五湖巡り	2	390	156.00
○奉公美談「父を助けて」	4	1,000	400.00
○第三回汎太平洋學術會議	1	240	96.00
○大正天皇御大喪の御儀	1	305	123.00
婦人の職業「優しき力」	2	575	230.00
○我國の火山	2	610	244.00
○國際親善「人形のお使」	2	455	182.00
この子この親	4	1,000	400.00

文部省製作活動寫眞フィルム目錄

(○印は貸與するもの、使用料金一卷一日壹圓の割)

フィルム名稱	巻數	米數	頒布價格
○關東大震大火實況	5	1,180	472.00 ^{圓 錢}
○皇太子殿下御成婚の御儀	2	545	218.00
○東宮同妃兩殿下神宮並山陵御參拜	3	815	326.00
○秩父宮殿下立下御登山	2	452	180.80
○觀 菊 會	2	365	146.00
皇太子殿下葉山海岸御水泳	1	200	80.00
○運動競技の分解	2	565	226.00
○女子の運動	2	545	218.00
○麗はしき「日光」	2	412	164.00
○納稅美談「北國の少年」	2	335	134.00
○皇后陛下御飼育の養蠶場	1	238	95.20
○御渡歐の秩父宮殿下	1	285	114.00
○日本アルプス縦走	2	548	219.20
○皇太子殿下樺太行啓	2	435	174.00
北海の奇觀「海豹島」	1	262	104.80
○北方の富源「樺太の産業」	1	310	124.00
○復活せる早慶野球戦	1	305	122.00
○帆走練習の大成丸	1	164	65.60
故 郷 の 歌	5	1,145	458.00
○日本三景「安藝の嚴島」	2	425	170.00

フィルム名稱	卷數	米數	頒布價格
○御大禮觀兵式、特別觀艦式	1	232	92.80
水 泳	2	433	173.20
有用動物「牛」	1	285	114.00
體 操	2	535	214.00
實業補習教育	3	(都)295 (農)300 (漁)238	118.00 120.00 95.20
魚の國(線畫)	1	302	120.80
雪國の一日	1	230	92.00
赤石岳	2	545	218.00
駒ヶ岳の爆發	2	488	195.20
○天皇陛下關西行幸	2	583	233.20
○世界一周飛行ツェッペリン伯號	1	305	122.00
○日出づる國	3	790	316.00
○覺めよ國民	2	605	242.00
二つの世界	1	304	121.60
第五回明治神宮體育大會	3	845	338.00
○御親閱 <small>昭和四年十一月</small> <small>昭和水戸堀原練兵場</small>	2	443	177.20
○萬國工業會議	2	490	196.00
○新宿御苑	1	213	85.20
忠吉は歸つた(線畫)	1	305	122.00
生きる力	5	1,430	572.00
幼児の運動	1	228	91.20
皇后陛下東京高等女子師範學校行啓	1	204	81.60

フィルム名稱	卷數	米數	頒布價格
鍬の光	4	990	396.00
陸上競技	3	895	358.00
病毒の傳播(線畫)	1	310	124.00
日本三景	1	285	114.00
我國の農業	2	548	219.20
動物界の母性愛	1	289	115.60
我が南洋	6	1,680	672.00
黒部峽谷探險	2	580	232.00
七つの夢(線畫)	2	610	244.00
十和田湖探勝	1	267	106.80
女子の體育	1	290	116.00
乳兒の榮養	1	305	122.00
鮭	1	275	110.00
うみねこの蕃殖地「蕪島」	1	280	112.00
冬のスポーツ	1	247	98.80
○ボートとその漕ぎ方	1	200	80.00
○悠紀主基齋田御田植祭	1	205	82.00
劍 岳	2	365	146.00
○御大禮の御儀	2	595	238.00
○悠紀主基齋田拔穂式	1	203	81.20
○閑院宮殿下御親閱 <small>京都府青年訓練</small> <small>學校教練</small>	1	165	66.00
十二指腸蟲の發育と其の感染經路	2	550	220.00
人體寄生蟲と其の中間宿主	2	530	212.00

フィルム名稱	卷數	米數	頒布價格
タヌ吉のお話(漫畫)	1	295	118.00
陽光を仰ぐ	5	1,200	480.00
五一ちゃん(漫畫)	1	300	120.00
マツチの話	2	530	212.00
尾瀬	2	420	168.00
小笠原島	2	440	176.00
セメント工業	3	725	290.00
必の力(千代紙映畫)	1	303	121.20
地震と震災	3	835	334.00
御親閱 <small>昭和六年十一月 熊本帶山練兵場</small>	3	620	248.00
二化螟虫と其驅除	3	1,020	408.00
狼は狼だ(漫畫)	1	300	120.00

フィルム名稱	卷數	米數	頒布價格
櫻石	1	152	60.80
油	2	400	160.00
○天皇陛下復興帝都御巡幸	1	258	103.20
昭和の帝都	2	470	188.00
○極東選手権競技大會總裁宮殿下御招待	1	270	108.00
皇太后陛下東京音樂學校行啓	1	260	104.00
○海洋少年團御親閱	1	300	120.00
皇后陛下東京聾啞學校行啓	1	265	106.00
皇后陛下東京盲學校行啓	1	275	110.00
鹿島槍ヶ岳と下廊下	2	495	198.00
ガラスの話	2	415	166.00
鹽の話	2	480	192.00
ろば(線畫)	1	290	116.00
禮儀作法	2	515	206.00
全國男女青年代表御親閱	2	360	144.00
明治神宮奉納神事舞	2	385	154.00
○明治の輝	3	630	252.00
○教育勅語渙發四十年記念式	1	200	80.00
御親閱昭和五年±月岡山練兵場	2	430	172.00
鯨	2	475	190.00
水の力	1	200	80.00
北伊豆震災	2	375	150.00
輝く愛	5	1,150	460.00

映畫に關する事項は

文部省社會教育局庶務課に

照會せられたし

終

